

モザンビーク概観

1. 政治

★1992年、16年に亘る内戦が終結、国家再建と民主化、経済社会開発が着実に進展する平和定着のモデル国。

本年10月28日、94年以降第4回目の総選挙実施予定。

過去の選挙結果につき特段の混乱は生じていない。

★2004年末に選出された現職（第3代目）のゲブーザ大統領（与党フレリモ党）は、強力な指導力の下、国民対話、貧困撲滅、官僚主義撤廃、放任主義排除等に取り組み、成果を上げている。求心力あり。

★野党第一党のレナモ（内戦時代の反政府ゲリラ）は和平以来、事実上の2大政党制の一翼を担ってきたが、近年、ドウラカマ党首への反発等から分派の野党新党（MDM）が結成された結果、与党フレリモの一党支配体制が強化された。

モザンビーク概観

2. 経済

★モザンビーク政府による復興開発努力をドナー諸国が「優等生」として高く評価、多額の援助を実施。国家財政の54%を援助資金に依存(07年)。
援助協調も進展。

★比較的健全なマクロ経済指標：インフレ率10%以下、実質成長率も金融危機後も5%程度で推移する見込み(00年～08年平均7.5%)

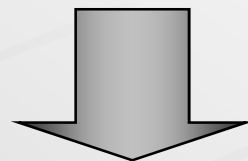
★広大な国土(日本の2倍)に水、森林等の天然資源及び石炭・ガス、チタン等のエネルギー・鉱物資源が豊富。
鉱物資源産業への直接投資は04年1億1百万ドルから08年8億4百万ドルへ急増。

★基幹産業がないため、ゲブーザ政権は国内政治の安定を強みにシサノ前政権時代よりも外資誘致を積極的に推進。

★世銀Doing Business 2010年版：第135位
(09年版第140位、サブサハラ全46か国中第18位)

総選挙とその後

10月28日総選挙



ゲブーザ大統領の再選 と
与党フレリモの勝利
が大方の予想

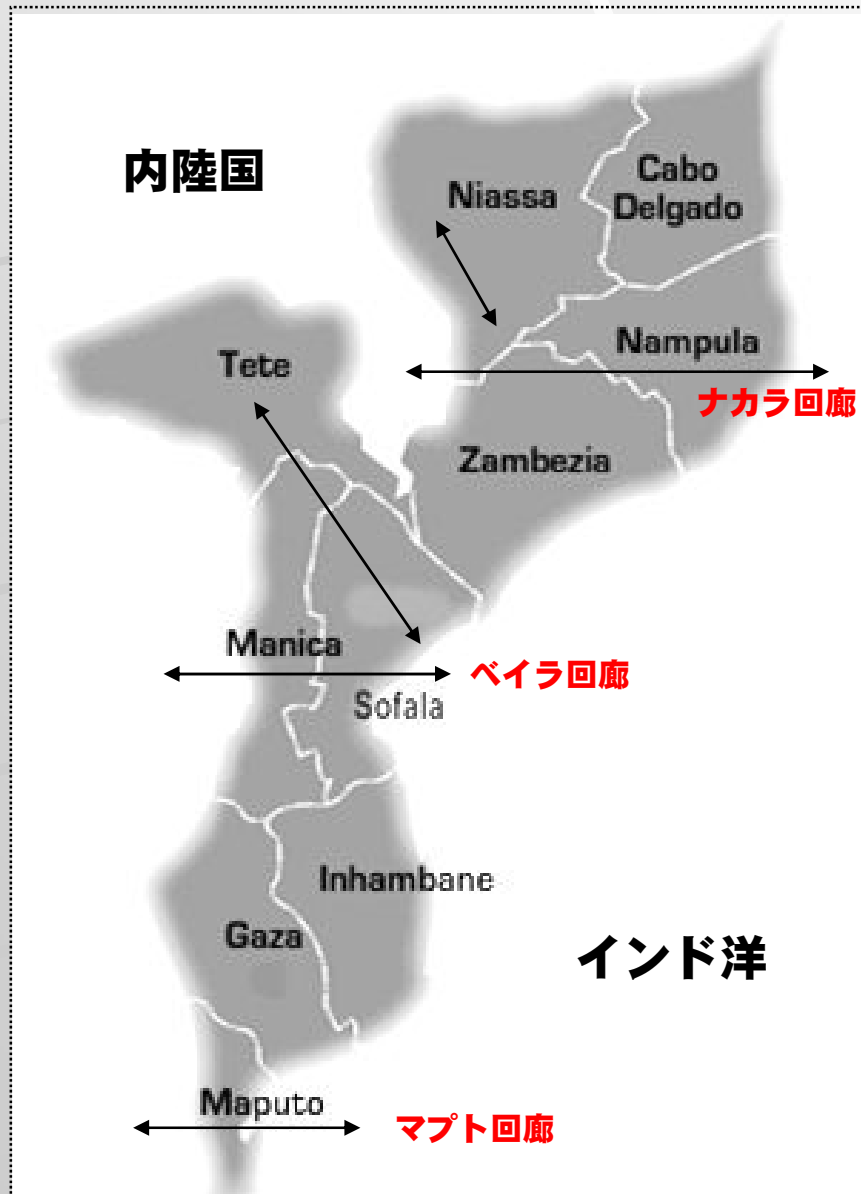


政治的安定性の拡大

積極的な外資誘致政策
の継続

投資環境整備の加速

地理的優位性



★内陸国とインド洋を繋ぐゲートウェイ

★重要なロジスティック 3 国際回廊

(1) マプト回廊

(道路、鉄道共整備済みだが、鉄道の取扱量は2百万トン程度で十分ではない)

利用国：南ア等

可能性：南ア貨物等の取扱拡大

(2) ベイラ回廊

(鉄道・道路共整備済み)

利用国：ジンバブエ等

可能性：テテ州石炭の積出

(3) ナカラ回廊

(鉄道あり(容量不足、未整備区間あり)、道路は全区間F/S等の目途あり)

利用国：マラウイ・ザンビア等

可能性：東アフリカーと称される天然の良港

ビジネス環境

進出企業の実感（「モ」で活動するビジネスマンの感触等の聞き込み）

★軽微な汚職（税関等で賄賂をせがまれる）等はあるが、プロジェクトの開始に関連する大きな汚職はあまり見られない。

★行政の非効率はあるが、「モ」国民一般は、真摯かつ誠実な性格。

★法制度の不備はあるが、政府中枢は、対「モ」投資の否定的なイメージを恐れるため、政府による外資に対する不合理な要求（接收リスク等）は見られない。

★「モ」は近隣国（特にSADC）の動向に敏感なため、投資等の諸制度に関しても、SADC等地域機関の基準に忠実。

留意点

★ナショナリズムの台頭

⇒近年、外国企業関係者に対する査証発給等が以前より厳格化。
「モ」人労働者を過度に保護する傾向あり。

★土地所有の問題

⇒社会主義国だったこともあり、土地の私有は認められておらず、プロジェクト等は全て国家から土地の貸与を受けて行うこととなる。

我が国企業の参画の潜在性

★インフラ整備

⇒ナカラ回廊関連の港湾・鉄道・道路の整備は、モザンビークが国家をあげて取り組む課題。

★エネルギー・鉱物資源

⇒テテ州石炭開発、ロヴマ石油探査、重砂開発、水力発電所建設、送電線配備等は今後の展開が期待される。

★紙パルプ・植林・木材

⇒豊富な森林資源、国内需要少

★水産品加工

⇒2,500kmに及ぶ長大な海岸線に豊富な魚介類

★農業（農産品加工、農機販売）

⇒穀物の増産は喫緊の課題、また、伝統的換金作物（カシューナッツ、タバコ等）も豊富。農機不足は政府の頭痛の種。

★セメント生産

⇒沿岸部に豊富な石灰。南部アフリカの需要大。現在、国内に3工場のみ。

テテ州石炭開発

モザンビーク北西部のテテ州には、アフリカ最大・最良ともいわれる石炭鉱区が存在しており、伯Vale社及び豪Riversdale社を中心に石炭開発が進む。両社の鉱区は近接しており、今後のプロジェクトの進捗が注目される。

モアティーゼ・プロジェクト

資本：伯Vale社

生産量：年間17.6百万トン

権利取得：2004年（探査権）2007年（採掘権）

出炭開始予定：2011年

火力発電所：600～2,500Mwの火力発電所を建設予定。

ベンガ・プロジェクト

資本：豪Riversdale社（65%）、印Tata Steel社（35%）

生産量：年間20百万トン（最大時）

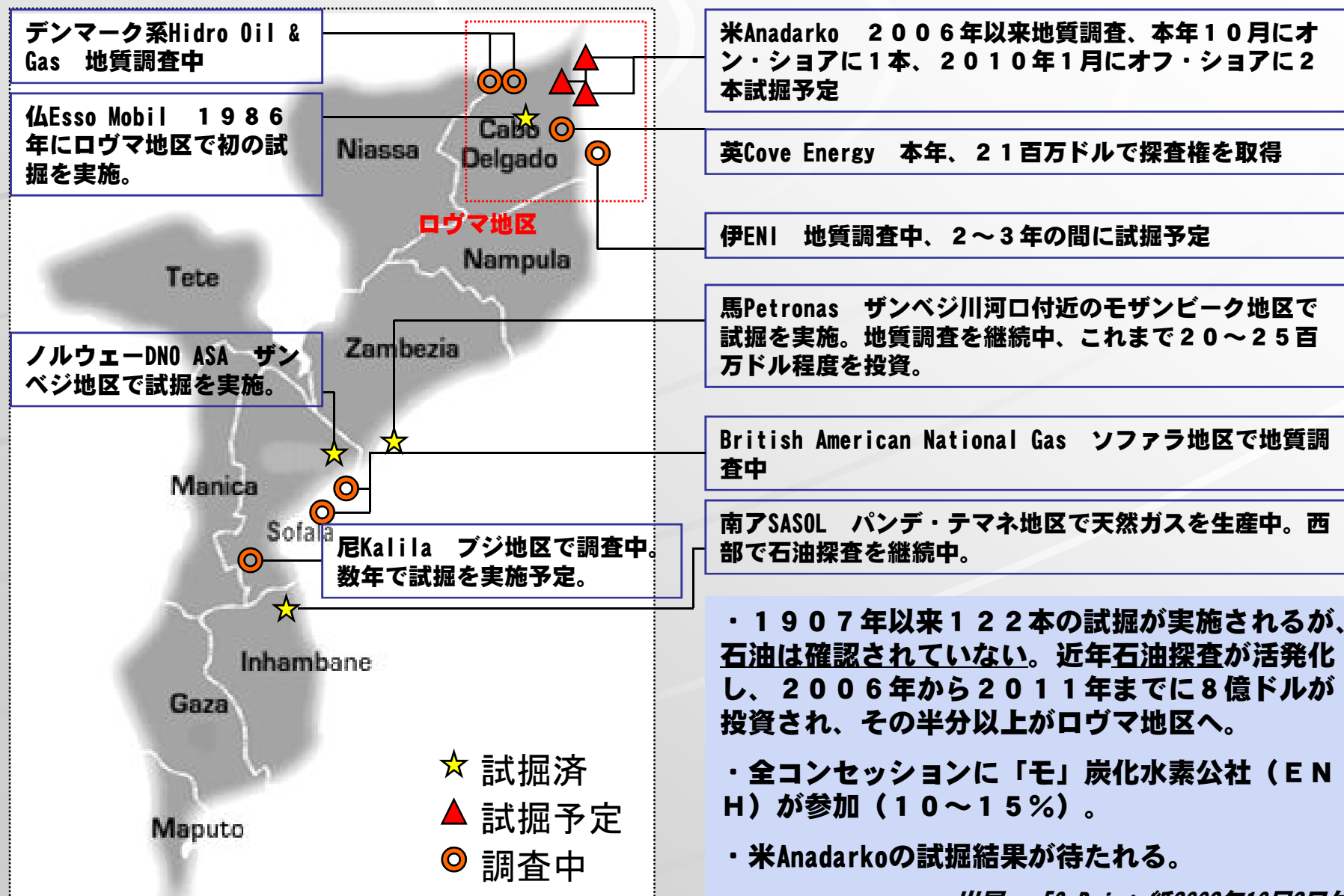
権利取得：2005年（探査権）、2007年（採掘権）

出炭開始予定：2011年

火力発電所：500～2,000Mwの火力発電所を建設予定。

積出港：モアティーゼーベイラ港のセナ鉄道線は2010年1月運行開始予定、取扱量は年間6百万トン。取扱量を12百万トンに増加させるには2億5千万～8千万ドルが必要とされている。代替策として、ナカラ港を利用する案もあるが、マラウイを通過する路線を整備する必要性等があり、課題は多い。

石油探査の現状



・ 1907年以来122本の試掘が実施されるが、石油は確認されていない。近年石油探査が活発化し、2006年から2011年までに8億ドルが投資され、その半分以上がロウマ地区へ。

・ 全コンセSSIONに「モ」炭化水素公社（ENH）が参加（10～15％）。

・ 米Anadarkoの試掘結果が待たれる。

出展：「O Pais」紙2009年10月2日付

主な大規模プロジェクト

稼働中プロジェクト

- ・カオラ・バッサ水力発電（テテ州、「モ」HCB）
- ・モザール・アルミ精錬（マプト州、豪BHPビリトン、三菱商事等）
- ・パンデ・テマネ・ガス開発（イニャンバネ州、南アSASOL）
- ・モマ重砂開発（ナンブラ州、アイルランドKenmare）

進行中プロジェクト

- ・モアティーゼ石炭開発（テテ州、伯Vale）（着工済）
- ・ベンガ石炭開発（テテ州、豪Riversdale、印Tata）（着工済）
- ・ナカラ精油所建設（ナンブラ州、米Ayr Logistics）（未着工）
- ・マプト精油所建設（マプト州、「モ」Oilmoz）（未着工）
- ・ムパンダ・ンクワ水力発電建設
（テテ州、伯カマルゴ・コレア、中国Eximbank 2 3 億ドル融資）（未着工）
- ・ロヴマ油田探査（カボ・デルガード州、米Anadarko他）
- ・シフト重砂開発（ガザ州）
（豪BHPビリトンとのコンセッション契約が本年10月で切れる予定、一時停止中）

検討中プロジェクト

- ・テテマプト送電線配備計画
- ・ナカラ回廊整備計画（港湾・鉄道・道路・空港）
- ・ポント・チョバニネ港建設計画
（マプト港から100km南に港建設、「モ」鉄道港湾公社（CFM）が検討中）
- ・マプトーカテンベ橋梁建設計画（マプト市と対岸のカテンベを結ぶ橋）